

広島県における MICE を活用した地域活性化（概要版）

— 広島らしいエリア MICE の実現を目指して One Team で取り組む！ —

広島経済同友会
観光振興委員会
2026年3月

1 MICE の概要



- MICE とは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称である。
- MICE 開催の効果、意義としては、①高い経済効果、②ビジネス機会等の創出、③都市ブランド・競争力向上、④交流人口の平準化、⑤レガシー効果（地域愛の醸成、国際感覚の涵養、地域産業の PR、交通インフラの整備等）などがあげられる。

2 国・各地域における MICE の現状



- 国・各地域における MICE の現状のうち、特徴的なものを整理すると次の点があげられる。

MICE の現状	
国	・2010年の「Japan MICE Year」を契機に、国際会議（C）だけでなく、MICE 全般の振興へと舵を切った。
各都市・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・強みを発揮できる分野、優位性が高い分野に絞って重点ターゲットを設定。 ・街らしさや、地域の強み・資源を活かしたユニークベニュー、エクスカージョンの開発・利用促進に注力。 ・MICE 開催補助金を設けているほか、近年では主催者に対するワンストップサービスを売りにする都市が増加。 ・官民連携、官学連携や、産学官連携の取り組みが進展。
先行都市	<ul style="list-style-type: none"> ・直行便が就航する国・地域等への M・I 誘致を強化するとともに（札幌、仙台、名古屋、神戸、福岡など）、他県と広域的に連携・協力して視察先等をメニュー化（仙台）。 ・『エリア MICE』と称して、都心部の複数の MICE 施設を連携させ、街全体で MICE を誘致・開催する取り組みに着手（東京、大阪）。
広島市	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模 MICE 施設は無いものの、中心部のコンパクトなエリアに近接する MICE 施設を利用し開催。 ・グローバル MICE 都市間比較では、国際会議の開催総数は少ないものの、平和をテーマとした開催数は多く、その他、医学系学会も数多く開催。
福山市	・初めての本格的な国際会議として世界パラ会議福山大会（2025年5月）が開催され、『エリア MICE』として市内に分散立地する既存施設を連携。

3 広島県における MICE の現状分析



- 広島県の MICE を取り巻く状況について、「強み」「弱み」「機会」「脅威」の4つのカテゴリで整理した。

強み（内部要因・プラス面）

- ・世界的な知名度の高さ
- ・平和記念公園や原爆ドームなど平和に関する歴史的なスポット
- ・G7 広島サミット、世界パラ会議福山大会の成功
- ・複数の会場を使用した広島市内中心部での大規模学会の開催
- ・国際会議（C）分野における産学官の連携
- ・新幹線、路面電車の移動のしやすさ
- ・お好み焼き、もみじ饅頭、牡蠣、熊野筆など数々の特産品
- ・瀬戸内の多島美、中国山地の景観、地域に根差す文化歴史
- ・支社・出先機関の集積、自動車・造船・鉄鋼など製造業の集積
- ・野球、サッカーなどスポーツ文化が定着

機会（外部要因・プラス面）

- ・国による MICE 施策の推進
- ・世界的な MICE 市場の回復と今後の拡大期待（特に M、I）
- ・インバウンドの急拡大とそれによる受け入れ態勢の充実
- ・新たな MICE 施設整備の検討（商工センター地区など）
- ・都心部の再開発の進展（広島駅、紙屋町・八丁堀地区など）
- ・社会全体の SDGs、DX の進展

弱み（内部要因・マイナス面）

- ・国際会議（C）以外の MICE 分野に対する取り組み
- ・大規模な専門的 MICE 施設が無い（会場分散化）
- ・展示会開催環境が弱く、展示会開催実績が少ない
- ・大規模アリーナ（グリーンアリーナ）の会場確保の困難さ
- ・会場施設の老朽化
- ・空港から広島市、福山市中心部までの距離感
- ・ワンストップサポートの体制整備
- ・MICE 施設間の連携
- ・MICE 専門人材の不足
- ・MICE に対する認知度不足

脅威（外部要因・マイナス面）

- ・人口減少、高齢化、人手不足
- ・各種コストの上昇
- ・国際会議（C）以外の MICE 分野の公的統計未整備
- ・MICE 推進に対する温度差（関係者と一般企業・市民）
- ・他都市との MICE 競争激化（PR・誘致活動、環境整備）
- ・一部地域におけるオーバーツーリズムの懸念

【参考】 国・各地域・広島県などにおける MICE の現状データ（抜粋）



(1) 他都市と比べ、広島は M・I の開催支援件数、展示会の開催件数は少ない

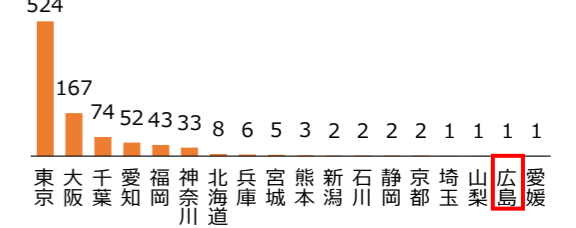
- 企業等の会議（M）や報奨・研修旅行（I）の全国的な開催実態は不明も、開催支援等の実績は福岡・札幌等が多い。
- 展示会は小規模のものは全国的に開催されているが、商談性の高い B to B 展示会は首都圏が多く、次いで関西圏が多い。

2024年度の主な都市の M・I の開催支援件数

都市	件数	人数	備考
札幌	74件	10,784人	インセンティブツアー開催支援件数
仙台	9件	1,316人	「仙台企業系会議・報奨旅行等開催助成」件数
千葉	16件	4,393人	開催運営支援活動 個別案件（M・I）の合計
東京	65件	-	企業系イベント開催支援事業の件数
愛知・名古屋	7件	2,656人・人泊	大規模 MICE 開催支援事業 個別案件（I）の合計
神戸	28件	-	誘致件数 124件、うち補助適用件数 28件
広島	8件	1,032人	インセンティブ旅行の件数
福岡	※	14,066人	※助成金交付件数 16件、物的支援 84件など

注：各都市の開催支援事業の内容・対象範囲が異なるため、単純比較はできない。
資料：各都市の MICE 誘致・支援組織（コンベンションビューロー等）の事業報告書等

2024年の都道府県別展示会開催件数



注：商談性の高い展示会で、実数把握が可能なものの件数。
資料：調べ-O-ビー EventBiz

(2) 各都市とも国際会議の誘致に注力、広島は平和に強み

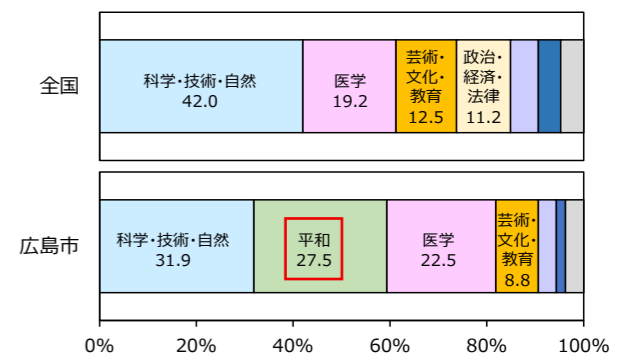
- 広島市の国際会議の開催件数はグローバル MICE 12都市中 11位、分野別にみると「平和」が多い点特徴。

2024年のグローバル MICE 都市別国際会議開催実績（件、万人）

順位	都市	件数	都市	参加者数
1	東京(23区)	351	横浜市	21.4
2	京都市	215	東京(23区)	19.1
3	福岡市	131	京都市	13.6
4	横浜市	103	福岡市	11.5
5	大阪市	89	神戸市	8.2
6	名古屋市	87	千葉市	7.9
7	仙台市	76	名古屋市	5.9
8	神戸市	63	大阪市	5.6
9	北九州市	50	札幌市	4.7
10	札幌市	47	仙台市	4.0
11	広島市	41	広島市	2.4
12	千葉市	25	北九州市	1.2

資料：JNTO 国際会議統計

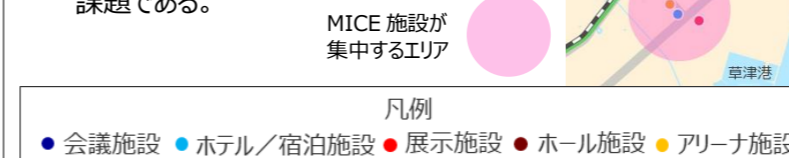
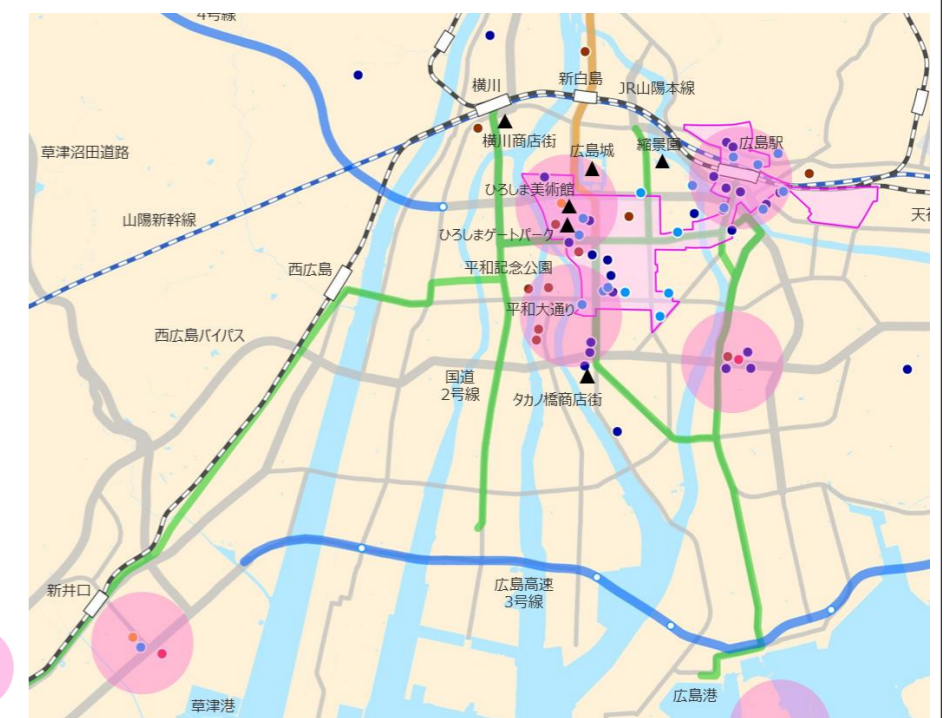
2018～2022年の分野別国際会議開催件数（構成比）



注：広島市は、全国分野別会議件数から「平和」に関する会議を再分類したものである。
資料：JNTO 国際会議統計、広島経済同友会観光振興委員会卓話資料（広島市）

(3) 大規模な MICE 施設が少なく、施設が分散している

- 広島市内の展示場は、総展示面積では広島県立広島産業会館（総面積 5,500㎡）が最大で、1室最大展示面積では広島市中小企業会館（2,640㎡）が最大である。他の地方都市に比べて施設数、規模もやや少なく、かつ施設が集中するエリアが分散している。
- 広島市内デルタには、広島駅エリア、基町エリア、平和記念公園エリア、宇品エリア、商工センターエリアが、特徴ある MICE を展開している。
- 施設の特長を活かし、全体として連携・補完するなど相乗効果の発揮が課題である。



4 広島県における MICE の目指すべき姿



広島らしいエリア MICE の実現を目指して One Team で取り組む！

●広島県における MICE の目指すべき姿として、『広島らしいエリア MICE の実現を目指して One Team で取り組む！』を掲げる。具体的には、MICE 全般について地域特性を活かした多様な参加主体・テーマでの開催、MICE 施設・地域資源を繋げた広域的な活用、地域のステークホルダーが一丸となった取組を進める。これにより、MICE 波及効果を最大化させ、広島県の各自治体が掲げる将来像（例：広島市「国際平和文化都市」）の実現に寄与する。

(1) 国際会議 (C) だけでなく MICE 全般の振興の実現

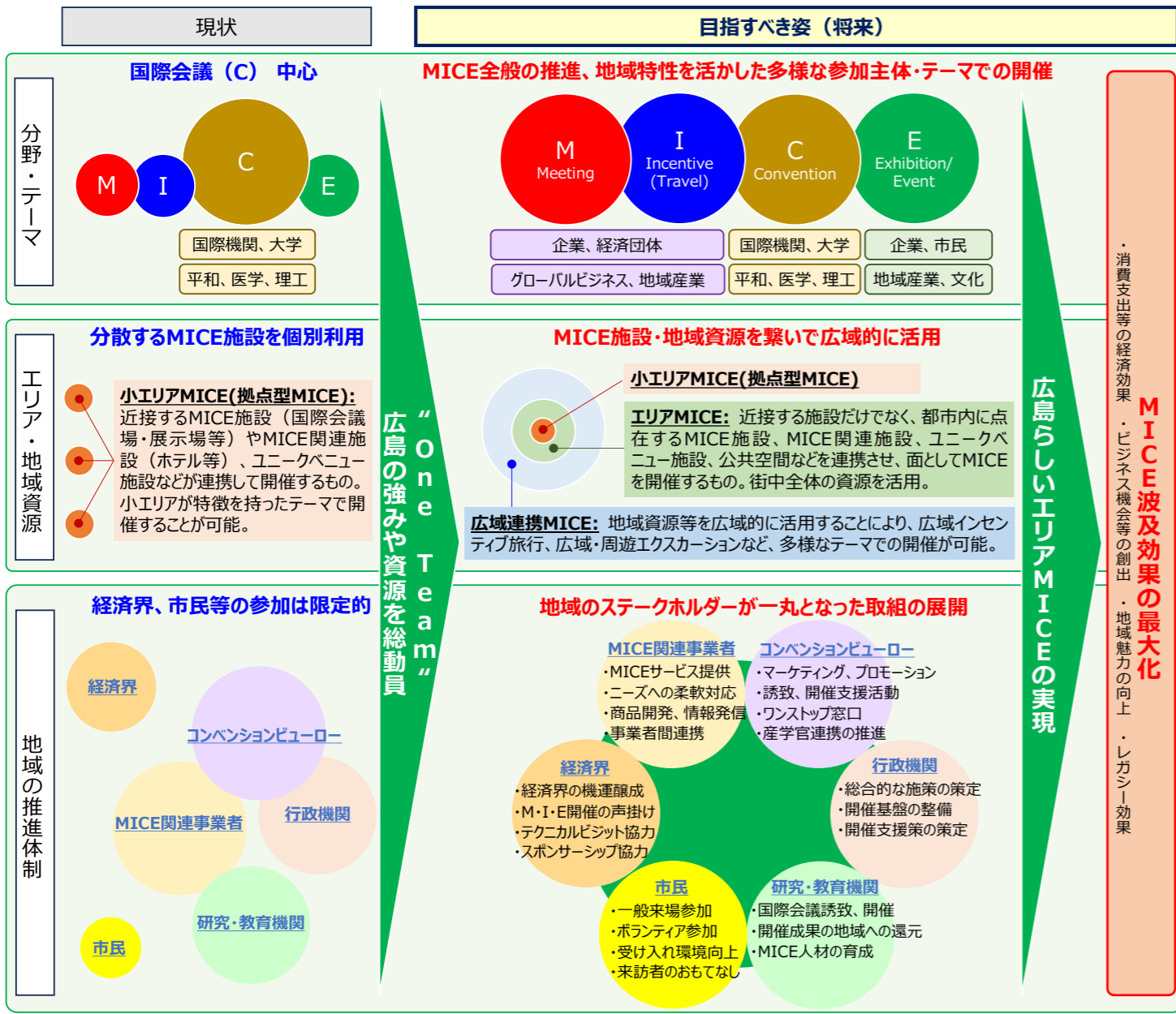
●平和や医学・工学を中心に開催実績が豊富な国際会議 (C) の誘致に引き続き取り組むとともに、今後は、支社・出先機関・製造業等が集積する特性も踏まえ、市場拡大が期待される企業等の会議 (M)、報奨・研修旅行 (I) や、広島市の展示施設整備計画に伴い実施機会が拡大する展示会・見本市、イベント (E) の取組を強化し、MICE 全般の活性化を目指す。

(2) エリア MICE (広島モデル)・広域連携 MICE (広域広島モデル) の実現

●広島市内には一定レベルの MICE 施設が整備されているものの、分散立地している現状を踏まえ、主催者・参加者のより多様なニーズに応えていくため拠点型 MICE に加え、「エリア MICE」を目指す。
●県内に分散する多くの観光資源を広く活用するとともに、広島市や福山市だけでなく県内全域に MICE 開催の恩恵を行き渡らせるためにも「広域連携 MICE」の形成を目指す。

(3) 地域のステークホルダーが一丸となった取組の実現

●広島ならではの魅力・価値を創出・提供する MICE の実現に向け、地域の力を結集して継続的な取組を目指す。



5 広島県における MICE を活用した地域活性化に向けた課題と方策



●広島県における MICE を活用した地域活性化に向けた方策の体系は以下の通りである。現行取組の継続・拡大とともに、新規取組については、スモールスタートによる成功体験の積み重ねなど、最適な手法・体制で挑戦していくものとする。さらには、こうした活動を通じて、経済界・市民等を含む関係者の協力の輪を広げ、地域全体で継続的に取り組む体制を確立していくものである。

方策の体系

【将来像】 各自治体が掲げる将来像（例：広島市「国際平和文化都市」）の実現に寄与

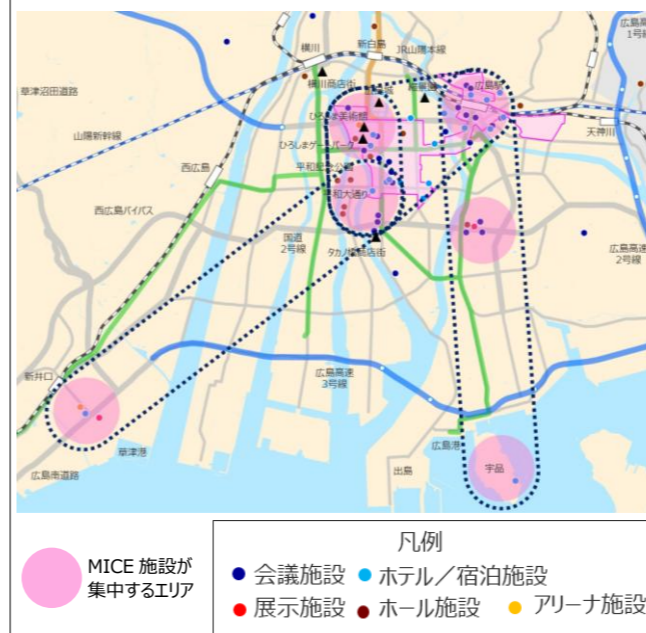
【目指すべき姿】 『広島らしいエリア MICE の実現を目指して One Team で取り組む！』

- (1) 国際会議 (C) だけでなく MICE 全般の振興の実現
 - (2) エリア MICE (広島モデル)・広域連携 MICE (広域広島モデル) の実現
 - (3) 地域のステークホルダーが一丸となった取組の実現
- ⇒ MICE 波及効果の最大化

課題	取り組みの方向性
① 誘致戦略	① 地域のステークホルダー等と連携した戦略的な誘致活動 ◇ 企業・団体、大学、自治体等のネットワークやリソースの活用によるマーケティング・プロモーション強化 ◇ 広島をはじめ国内外の多くの企業等による M・I 開催や多様な主体による E の開催に向けた誘致環境づくり
② 受入環境整備	② 各エリアの特性と都市機能・空間を最大限活かした MICE の推進 ◇ 更新時期に合わせた MICE 関連施設の整備・拡充 ◇ エリア内・エリア間での施設等の連携・一体的な活用 ◇ エリアならではの魅力的な MICE の提案、おもてなしの向上 ◇ MICE ワンストップソリューションの提供
③ コンテンツ開発	③ 広島ならではの強みや地域資源の有効活用 ◇ 地域の強み、地域資源を活かした広島らしい MICE コンテンツの開発と定着 ◇ 広域的な地域資源の活用（観光列車、クルーズ船、神楽、自然体験等を活かしたエクスカーションなど）
④ 推進体制整備	④ オール広島による MICE 推進体制の構築 ◇ 企業、行政、大学、市民を含めた MICE 推進・連携体制の構築・強化 ◇ 大学、企業等と連携した MICE 人材の確保・育成 ◇ MICE 開催の必須条件となりつつある社会変化（SDGs、DX）への対応
⑤ 経済的・社会的効果拡大	⑤ MICE 開催による地域活性化 ◇ MICE を通じた地域産業の振興（ビジネス機会・イノベーション創出など） ◇ MICE を通じた市民生活の向上（学術・文化振興、地域づくり、にぎわいづくりの推進など）

広島市内でのエリア MICE の展開例

●基町一帯、広島駅周辺などで実施する「小エリア MICE」や街中全体の施設・都市機能を連携させて一体的に取り組む「エリア MICE」を展開する。



広域連携 MICE の展開例 (地域資源の広域活用のイメージ)

●グローバル MICE 都市広島市や国際会議観光都市福山市はエリア MICE の拠点としての役割が期待される。また、両市の周辺地域の様々な地域資源等を広域的に活用することで、広域連携 MICE (広域広島モデル) の展開が期待される。

